

丸鳥取

題字
杉谷 泉里
(湯梨浜中2年)



カーリングの魅力を語る近江谷杏菜選手(左)
と山口剛史選手=浜田市殿町、市役所

カーリングで施設活用を提案

「サン・ビレッジ浜田」

史選手(38)＝SCC軽井沢クラブと、バンクーバー五輪出場の近江谷杏菜選手(33)＝フルティウス。日本カーリング協会のアスリート委員派遣事業で、サン・ビレッジ浜田で11、12の両日開催される「第4回西日本ミックスカーリング大会」の視察に合わせて表敬訪問した。

前日に浜田市入りし、リンクを下見した山口選手は「大きな大会ができる施設だ」と評価。「競技人気は高まっており、選手を呼び体验会を開けば大勢参加してもらえる」と期待した。

近江谷選手は北海道など北日本で盛んな理由について「寒いからではなく、施設があるから」と強調。リンクがある浜田なら普及できるとの考えを示した。

市上府町)を活用しの普及やまちづくり提案した。は、平昌五輪に出場役日本代表の山口剛は、は、山口剛

30分間1人5千円、2人7千円の料金設定で、26日からは松江城周辺や玉造温泉街のほか、結婚式を含むイベント会場など、市内ならどこでも軽トラックに積んで出向く。

自分たちが頑張ることで、誰かを笑顔にできたら、それが喜び。新しい出会いが楽しみと目を輝かせる司さん。2人は人力車を「まつ笑」と名付け、これまで支援してくれた人たちへの感謝も乗せて走る日を待っている。



人力車を「松江の新名物にしたい」と吉川司さん(左)と佳奈美さん

「笑顔届けて

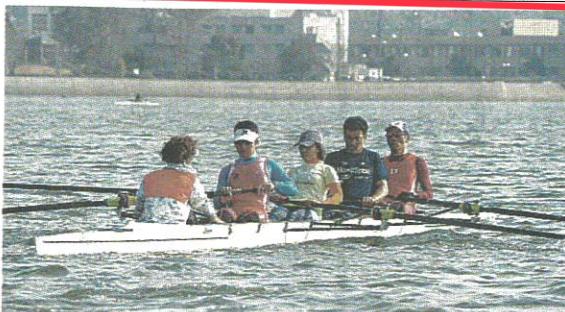
問い合わせは司さん、電話070-(846)1836。

新型コロナウイルスの影響で2021年の開校以来、留学生が入国できずオンライン授業などで対応してきた「はなまる日本語学校島根校」(江津市江津町)で10日、初めての卒業式があつた。コロナ禍に翻弄さ

一ム拠点の札幌市ではリンクの予約が取れないほど人気だといい、高齢者の楽しみや観光客の体験の場としての活用も紹介した。

久保田市長は「カーリングを盛り上げほしい」と応援する一方、「どのスポーツも人口減少で競技者を確保できない悩みがある。支えてくれる企業も必要になる」と話した。

サン・ビレッジ浜田のアイススケート場は、利用者減や老朽化で市が廃止方針を打ち出したが、その後判断を保留している。



2022年12月に開幕した第37回中央新報バレー東部リーグ戦(鳥取壮年バレー連盟主催、山陰中央新報社後援、ミカサ協賛)が後半戦に突入し、熱戦を繰り広げている。4月の閉幕に向けてしのぎを削る出場6チームの功労者から、それぞれのチームの選手に向けて熱い思いを語ってもらった。

2024年のパリ・パラボート強化合宿ボート・パリ・パラを目指す米子ボート強化合宿

2024年のパリ・パラリンピック出場を目指すパラローライニング(障害者のボート競技)の強化合宿が10日、3日間の日程で米子市の錦海ボートコースで始まった。米子東高出身でコッズ(舵手)として日本代表入りした来海泰志選手(埼玉県・戸田中央総合病院)らがパラ出場を懸けた9月の世界選手権(セルビア)を照準に、初日から力強くオールをこいだ。

参加メンバーに名を連ね



アタック壮年 チーム功労者から選手へ

第37回 東部リーグ

大正クラブ

アタック壮年

①

選手の森卓也選手(米子市・養和会)ら選手6人とスタッフ6人。初日は1人乗りと5人乗りのボートで水の感触を確かめながら、ぐいぐいとこぎ始めた。25歳の来海選手は、8歳から18歳まで練習した慣れ親しんだコースで「日本代表として戻つてこられてうれしい。合宿を通して成長したい」と意気込んだ。

鳥取県ボート協会の協力で合宿を実施する日本ボート競技協会の佐原英行強化統括責任者は「水面にアク

セスしやすく波も穏やかで、しつかりこぎ込める」と環境の良さを評価した。

(井上 誉文)

